

ナジブ氏が第6代首相に就任 (2009.4.3)

順送り人事におわった UMNO 役員選挙

福島康博

(桜美林大学国際学研究所非常勤研究員)

4月3日に第6代のマレーシア首相に任命されたナジブ・ラザクは、これに先立って3月26日に行われた UMNO 党大会において、無投票当選で UMNO の総裁に就任した。無投票となったのは、総裁選に立候補するために必要な UMNO の支部からの推薦数を満たしたのがナジブだけだったからだ。ナジブは、アブドラ前総裁の下で副総裁を務めていたことから、ポストが1つ昇格したことになる。

UMNO には党員の性別と年齢によって3つの部(wing)が存在し、それぞれ婦人部(UMNO Wanita)、青年部(UMNO Pemuda)、女子部(UMNO Puteri)と称する。PWTCで行われた UMNO 党大会では、この各部の長を決める選挙も同時に行われた。それぞれに激しい選挙戦が展開されたが、終わってみれば副部長の人物が部長に選出されるという、順送り人事の結果となった。ナジブが副総裁から総裁になったのと、同じ構図である。

婦人部長選挙では、事前の候補者一本化に失敗、現職のラフィダ・アジズと副部長のシャリザ・ジャリルが争ったが、シャリザが当選した。2008年の内閣改造で国際通商産業相を解任されたラフィダはこれで党のポストも失ったことになり、長きにわたって権勢を振るった彼女も、世代交代にさらされることになった。三つ巴戦となった青年部長選挙では、事前の予想ではマハティール元首相の実子であるムクリズ・マハティールが当選と思われていたが、蓋を開けてみるとアブドラ前総裁の娘婿であるカイリー・ジャマルッディンが選ばれた。カイリーは青年部の副部長であった。そして女子部は、6名が立候補する激戦となったが、これを制したのは副部長のロスナー・アブドルだった。

この順送り人事の選挙結果をみて思うことは、UMNO という政党における組織の堅牢さと、そのような組織の中で繰り広げられる覇権争いの厳しさだ。若い頃から UMNO に所属し、時には自らの主張を党内に浸透させていき、また時には党内意見を集約していく。改革派であろうと守旧派であろうと、一つ一つ党内選挙を勝ち上がっていかない限り、BN 政権の中枢を担う

ことはままならない。このプロセスを UMNO のパワーの源とみるか、あるいは汚職の温床とみるかは、判断が分かれるところだ。いずれにせよ、UMNO の新総裁であるナジブもまた、このプロセスの中で生まれた政治家の一人である、と指摘できよう。■